
特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 令和 7 年度通常総会 議事録
－ 補足資料（質疑応答）－

各議案にて、議長より挙手による質問を受け付けたところ、以下の通り質疑応答がありました。
(質疑の記録においては、質問者を「◎」、理事会を「●」と記載します)

<第一号議案> 2024 年度事業報告並びに決算及び監査報告について

- (1) 議長より、議事の進め方について以下の提案があり、質疑応答の前に参加者と理事によるバズセッションを実施した。
[提案概要]サミット宣言で示されているように対話を重視すべきとの考えや、質疑応答だけ行なうことは場の雰囲気が悪くなることに加えファシリテーションの本質からも外れると考え、質疑応答の前に隣の席の人と対話することを提案する。また、対話には理事も加わってもらいたい。
- (2) 災害復興委員会の活動に関して、昨年度の活動で、出来なかったことがあれば教えて欲しい。
 - しっかりヒアリング出来ていないが、出来なかったことについては上がって来ていないため、特にないと認識している。
- (3) 収支バランスについて、どの部分をどのように工夫したか教えて欲しい。
 - 突出して特定の部署がというのは無く、例年の傾向で予算を多く計上し予算と実績の乖離が生じていた点を実績になるべく合うように工夫をした。、これは、予算適正化に向けて方向性を検討するチームでの議論をベースにしたものである。

<第二号議案> 2025 年度事業計画並びに予算について

- (1) 総会資料 P23「あのね会」とはどのような活動かを教えて欲しい。
 - グローバル委員会で 3 月ごろに出てきた話。グローバル委員会は IAF 等の国際的な活動と思われがちだが、身近なグローバルについて対話をする場を作っていく方針である。
- (2) 支援助言事業の予算で、災害復興委員会は昨年度実績 310 万円に対し、今年度予算 175 万円であり適切な予算となっているのか？災害はいつ起こるかわからないが、前年並にしないと対応できないのではないのか。
 - 適正と考えている。発災時の費用をあらかじめ入れていないため、昨年度実績より少ない予算となっている。また、昨年度は能登での活動があり実績が多くなっている。
 - ◎ 毎年のように災害が起こっており、予算策定の考えはそれでよいが、（4 号議案にも絡むが）定款を変更してまで緊急対応をしないといけないのか。
 - 災害復興支援以外にも緊急に計る事案があり、定款変更の提議をしている。
- (3) 今年度予算の執行に対して会員はどういうスタンス(心づもり)で臨めばいいのか。予算通りにいかないことが少ないにしても、あまりよくないのではないのか。今までは支出の実績が結果として抑えられているが、今年度は予算執行に対するスタンスが変わるのか
 - 今年度以降も“予算通りに執行する”スタンスとする。
- (4) 総会資料 P21 の前文について。「社会に対してどの様な価値を提供していくか見つめ直す...(以下略)」とは、どの事業でどの様に実施するのか。FAJ 組織としてのあり方(P23)には含まれていないように見える。

- 特定の事業を念頭に置いてはなく FAJ 活動全体がそうである認識で策定している。社会に対して何が出来るのかを示している。
 - ◎ 「社会に対してどのような価値を提供していくべきかを見つめ直す」推進する方法は何か考えているか？
 - 具体的な会議体で議論することなどを考えているわけではない。あらゆる活動において各自で考えて欲しい。
- (5) 総会資料 P23「ガバナンス、会員制度...考えて行きます」とある。会員制度のあり方をゼロベースで考える、とはどのようなアウトプットを考えているのか。
- 予算適正化チームの提言も含め、どのようなアウトプットとなるかはこれからである。
 - ◎ 会員制度のあり方は全ての会員に影響すると思うが、進捗があった場合に会員への共有を密にして欲しい。
 - 議事録だけでなく意見を伺うとかチーム作る可能性もある。会員への積極的な発信や呼びかけを行なっていく。ゼロベースで考えて行く。
- (6) 理事会も予算削減により人の移動が少なくなると思われる。監事コメントの対面コミュニケーションが重要であるとの指摘と矛盾している。これを踏まえてどの様に活動を進めていくのか。
- 対面開催の理事会、理事合宿は実施しない。東京大阪 2 拠点で集まるなど経費を節約し、対面もしくは対面に近い形で集まる事も考えている。理事会以外にも活動がしにくいことを洗い出し、来年度はより効率的な活動ができるような予算作成に取り組んでいきたいと考えている。執
- (7) 総会資料 P32 サミットについて。「サミットを実施する場合は黒字」でなく「黒字なら実施する」でないのか。また、「サミットを実施」に対する主語は誰なのか。実行委員会、理事会？
- サミットは黒字が見込める場合に実施する。サミットは、実行委員ができて予算案が出来る。予算を承認するのは理事会なので主語は「理事会」である。
 - ◎ (応答に対する感想) 会員のやりたい思いが集まると実行委員会が作られる。黒字が条件となることで、その意思を削ぐのではと懸念する。寄り添う気持ちは無いのか。実行委員会が立ち上がるかどうかを懸念している。やりたいと思ってたけど諦めている人がいるのではないか。

＜第三号議案＞ 2025 年度役員の選任について

- (1) これから業務が増えるのになぜ 1 名減るのか。理事 9 名は適正であるか。補足資料には「尽力いたしますので」とあり、減員やむなしに見える。必要なら臨時総会を開いてでも増やせないか。
- 適正な人数は 10 名だと考えている。1 名の方はご事情があり、就任をお断りされた。他の候補者も考慮したが、地域などのバランスを考え他は選ばなかった。理事を増やすことは臨時総会開催となるがそこまでは考えていない。
- (2) 令和 4 年の理事及び監事候補にはプロフィールがあったが今回は無い。なぜ無くなったのか、復活を希望する。今年度の候補者も開示して欲しい。推薦理由をあとでも公表して欲しい。
- 過去、作ったが反応が無かった。今回改めて意見を受けた。どう再開するかは考えていく。
 - ◎ (会場に賛成の方の拍手を提案) 拍手多数。具体的な内容は理事会に任せる。最近の株式会社の役員選任では普通にやっている。
- (3) (意見) 理事の負荷を下げる事を考えて欲しい。理事会が抱え込む必要はなく、拠点に委ねる所は委ねて欲しい。理事会では運営より経営の意思決定に時間を使って欲しい。拠点のメンバーを理事会に呼んでもいいと思う。

＜第四号議案＞ 定款の一部変更について

- (1) (監事としての意見) 発言する際の言葉は大切にしたい。稚拙という表現は謹んで欲しい。
- (2) 定款には緊急の定義がない。会長が「緊急」といえば招集できてしまう。但書の「その限りでない」がどこまで(日時/目的も含むのか)を省略していいのかが解釈できない。修正案を持ってきたので、(議案の修正提案がないので)修正動議をかけたい。
 - (修正動議の手続きを確認) 修正動議を認めるかどうかを総会(対面)出席者 1/2 以上の同意で問う。修正動議が認められれば対面出席者で採決を行う。
 - (修正動議の内容) 緊急理事会の定義を追加する。
 - (修正動議に関する質問) 修正動議の文言に「招集」「召集」と文字の揺らぎがある。揃えた方が良いが意図したものか。
 - (修正動議の提議者) PC の変換ミス。「召集」が正しい。
 - 文言は後から修正することはできないか。
 - 定款の変更なのでできない。
 - 修正動議、本案とも否決されたらどうなるのか。
 - 臨時総会を開催するか、1 年後の定時総会で諮ることとなる。
 - 修正動議の結果について
 - 修正動議修正動議の採否は、総会の出席者の過半数以上の賛成があった場合に成立する
➔ (挙手による賛否) 賛成 15 (退席 5) により、修正動議は否決された。
 - 補足：但書を適切に扱うためのプロセスは議事録に記載する。
 - 議事録ではなく運営規程に記載して欲しい。
 - 運営規程もしくは内規的運用事項に記載する。
 - 「この限りでない」は 14 日前までである、を規定に書いて欲しい。
 - (以下は司法書士による回答) この規定自体はよくある内容である。14 日の根拠はネットがない時代の郵便事情が背景にある。また、メールは書面による通知とみなされる。
 - 「会長が必要と判断した場合」について、会長の判断が不適切であった場合は、会長と理事は理事会では対等であるため、理事が会長の判断を指摘することで制度の適切な運用を担保される。また、理事にはそのような運用をして欲しい。
 - 本件では、定款変更までの必要はないと考える。

その他、質疑応答の中で、以下のようなご意見をいただきましたので、ご紹介いたします

- 総会の質疑応答の経過(Q&A)がたどれなくなっている。今回も残してほしい

以 上